

市民一丸で 国体を 盛り上げよう



国体開催日までの残日数を表示するカウントダウンボードが完成しました。ぎふ清流国体の文字が書かれた土台に長良川の砂利を敷き詰め、長良杉の木目をそのまま生かしたシンボルマークは「自然豊かな関市」を表現。除幕式では、制作に携わっ

た関商工高校生徒らが出席し、開催日まで残りちょうど「555」日の電光掲示が表示されると、参加者から拍手が沸き上がりました。このカウントダウンボードは、国体開催日まで市役所1階アトリウム内に常設されています。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」

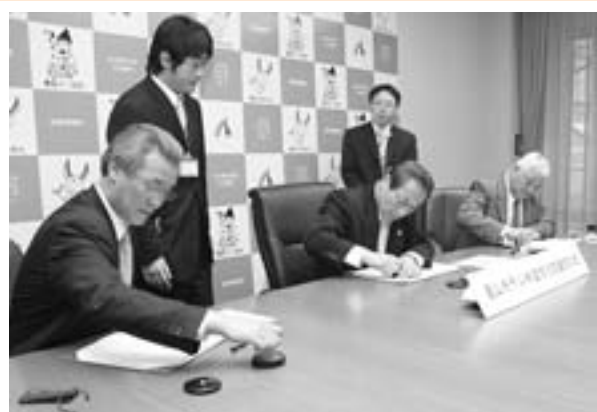


大切に育てることを誓います

富岡小学校4年生児童は、絶滅危惧種のウシモツゴの飼育に取り組んでいます。昨年から今年まで190匹ほどの多くの稚魚がかえたことから、NPO法人ふるさと自然再生研究会の指導を受け、水槽だけではなく運動場に池を整備して、育てていくこととしました。飼育を引き継ぐ3年生に、ウシモツゴの育て方について説明し、その後池へ放流しました。児童たちは大切に育てていくことを誓い合っていました。

素晴らしい自然を後世に

市民の憩いの森や環境教育の場の整備に向けて、関ライオンズクラブ、NPO法人スリーハンドと関市による「里山モデル林造成に関する協定」が締結されました。市が提供する市有林を、里山整備として両団体が協力して事業を展開します。小瀬グラウンド西側に整備する市有林は、年度内の完成を目指して実施し、市民が親しみを持てる場として期待されます。





ハンガリーから感謝の挨拶

昨年10月にハンガリーのアルミニウム精錬工場で起きた赤泥流出事故の際に、大量のマスクなどを援助したお礼として、ハンガリー大使館特命全権大使が市長を表敬訪問しました。この事故で、この地区のライオンズクラブ国際協会や県ハンガリー友好協会が現地へ送ったものです。大使は「これを機にハンガリーと関市の友好が深まることを願います」と話しました。

毎日給食ありがとう

板取小学校で、1年間お世話になった学校給食調理員やふるさと学習講師などを招いて「感謝の会」が行われました。児童らは「毎日おいしい給食を作ってくださいと感謝しています」と心を込めて手作りの感謝状とメダルを制作。この日、一緒に給食を食べた後、感謝の言葉を話してメダルを首からかけてあげると、参加された方はみんな笑顔で受け取っていました。



地域に愛される医療機関へ

武儀診療所と上之保診療所の指定管理者となる地域医療振興協会と市の基本協定の調印式がありました。全国的な医師不足の中、両診療所でも安定して医師を派遣することが課題となっていました。市は、指定管理に委ねることや、両診療所を統合した新しい診療所を建設する方針を決定。この締結に至り、今後市民に喜んでいただける医療サービスを目指し、地域医療体制の充実が図られます。

思いを伝える「弁当の日」

親の力を借りず、子どもが自ら献立を考え、材料の買い出しから、調理、片付けまで、全て自分だけで弁当を作る活動を知ってもらい、実践を進める講演会が開かれました。講師の竹下和男さんは、弁当を作るにはさまざまな人の関わりがあり、それに気づくことで「感謝の気持ち」が養われることや、大人が子どもに「思いを伝える」手段のひとつであることを話しました。



こぼれ話



昭和39年に関市民会館として建設され、翌年の岐阜国体で剣道競技の会場となるなど、歴史ある旭ヶ丘小学校体育館が、老朽化により建て替えられることとなり、先月、全校児童や地域の方が集まって「お別れ会」が開かれました。式典では、児童や地域の代表が47年間の思い出を述べ、全員で感謝の意を表していました。卒業生である私も、体育の授業や鼓笛の練習を思い出し、とても感慨深いものがありました。

さて、本年度末に完成予定の新体育館で、より素晴ら

しい学校生活とより多くのことを学べる場として望まれますが、忘れてならないのが、有事の際の避難所としての利用です。東日本大震災の未曾有の被害で、現在も避難所生活を余儀なくされている方が大勢いらっしゃいます。自宅を離れて生活するのはとても不自由で、過労やストレスで体調を崩す方も多くあると思います。起きてほしくない災害ですが、避難している住民同士で声を掛け合い、助け合いながら心身の健康を保つように心がけなければならないと思います。新しい体育館が、地域の安全・安心の拠点となることを期待しています。